

きる状況ではあります  
ん。ですが、この場合  
は運賃の負担が大きく  
なってしまう。ですの  
で、再生碎石を売ると  
いうビジネスは単体で  
は成り立たない状況で  
す。そのため多少でも  
収益性を確保するため  
には、排出事業者と交  
渉し、コンクリートが  
費などに転嫁すること  
北関東などに持つて  
いくにしてもやはり輸  
送コストが大きく行  
政がこれを一定程度負  
担していただけるなど  
の補助があれば、物の  
流れは一気に良くなる  
と思います。現在こう  
いった状況について、  
東京都が再生碎石の都  
県を跨いだ広域利用に  
ついて業界団体にヒア  
リングを実施した状況

ばいいのですが、現状はそうならない。  
基本的に再生碎石はほとんど基礎工事に使  
用されています。まずは道路用の路盤材、こ  
れがもつとも大きいですね。そして建築物の  
基礎にも使われています。どちらも今大きな  
現場は都内にはほんとなく、北関東でも  
つていかない販売であります。  
唐澤 首都圏など、大  
都市圏では再生碎石があふれ、地方では解体  
工事が少ないため、再生碎石が足りなくなる  
きている現象でした。が、これが強まってい  
ながら解決していくと、いう姿勢が非常に重要になってきてます。

工期にも影響が出ます。施主にも影響を与えてしまいます。現在の状況は決していい状況とは言えないです。唐澤 実際に状況はひとつ迫しています。コンクリートがやはり都内で出るものが多く、これらを隣り合っている県などを使ってもらえないで、現状をきちんと話し、処理の金額についても必要な費用として交渉します。特に再生碎石の状況を考慮すると、処理業者と手を取り合って事業を進めることが必要になつてきます。お互いに利益を取り合うという関係性ではなく、関係する事業者みんなで

——「コンクリートがらのリサイクルについて、どのような印象をお持ちですか。」

島村　解体業者からすると現在、ひつ迫しているイメージが強いですね。受け入れる先が見つかなければ、われわれも建物の解体を進められないですね。そして、実際工事が進み、コンクリートがらが発生した際に遠方までも生しいかなければならぬ、ということがあります。当社は元請けの仕事

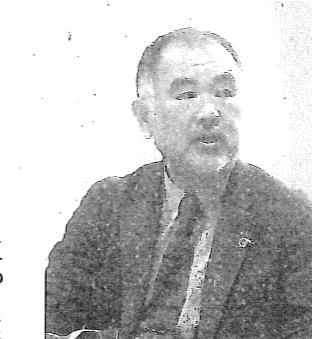
——「コンクリートがらのリサイクルについて、どのような印象をお持ちですか。」

島村　もちろん処理業者ができること、解体業者ができることは違いますが、一緒に悩みを解決していく時代になりました。さて、島村さん、あなたがこの問題をどうお考えですか。

島村　再生砕石販売の負担を減らすしかありません。せん。

再生砕石のリサイクルを行ふ黒姐クループ（東京・足立、唐澤明彦社長）と、都内を中心に解体工事を行う都市テクノ（東京・港、島村智之社長）が連携を始めた。それぞれの事業や連携、再生砕石の状況について聞いた。

# 再生砕石と解体工事の動向



黒姫グループ  
唐澤 明彦社長



都市テクノ  
島村 智之社長

でも民間工事でも適正な価格で優先的に使用していくべきようにするためには、リサイクルという観点や有害物についても適切な分析も行っていること、そして $\text{CO}_2$ を固定できる材料であることが求められるでしょう。まず一つ一つ丁寧に説明していくことが求められます。また、再生碎石はモルタルケースを作つていきたいと考えています。

競争や過度な環境配慮などの問題もあり、処理業者が適正な収益を得られる状況にはありません。再生骨材コンクリート用の骨材としてコンクリートがらをリサイクルする方法もありますが、現状ではやはり製造コストなどの問題があり、再生骨材コンクリート市場が大きくなっている状況にはありません。

工事は行われ、コンクリート搬入は処理に回つてくるものですから、一日も早く行政としても何らかの対策を行つていただきたいですね。これからは排出事業者、解体業者、処理業者、施工業者など皆で連携していく必要があると思います。東京都では、再生砕石、再生砂を公共工事で優先的に使うことになつていますが、民間工事ではなかなか使われないのが実態です。

「再生碎石がCO<sub>2</sub>を固定できるの?」といふ疑問を持つ方が多い状況でして、これからは時代、CO<sub>2</sub>固定は付加価値となり得るのに、非常にもつたいないと思うんですね。

またJISには、再生骨材についてはL。M・Hが規格されていますが、コンクリートにはJIS規格外のももあるわけで、そこでなら再生碎石のまま、再生砂のまま使え、

切迫していますよね  
すぐに行動起こして  
いきたい気持ちもあって、連携する流れにな  
りました。

共感するところがあります。もちろん会社としての取り組みに共感できるところもあります。私は企業経営における資源の中で重要なのは人物、金、情報、時間といろいろあると思うんですが、私自身時間を非常に大切にしています。そして、島村社長も行動的で、すぐ行動するところは非常に共感できます。再生碎石の問題は非常に

大切だと思います。  
そして、民間として  
できることをやってい  
く。私自身積極的に人  
と「ミニユースケーション」  
をとつていくタイプで  
して、所詮人間ですか  
ら、話せばわかるとい  
う感覚で取り組んでい  
ます。直接会話をして、  
コミュニケーションを  
とって、お互いぶつか  
り合いながら話をして  
いっていった方が有意  
義だと考えています。

まずはこちらで用途展開を考えていこうと考えています。現在、島村社長や大学の研究室などと連携したプロジェクトを計画していくまです。詳細はまだ言えませんが、複数のステークホルダーが参加する産学が連携したプロジェクトとなります。

島村 一つの事業を行うには多くの関係者、ステークホルダーがいます。皆で行政などに、もきちんと声を上げて、いくこと、声を上げ続けていくことはやはり

町づくりとしての  
解体工事と解体祭

「アートとテクノ 最に触れることができる  
後のおもてなし」を 技術展示や、「再生」  
開催しました。ここで 「ンクリート」のプレゼ  
はいくつかのイベント ント企画です。  
を企画しました。一つ —解体工事、そして

話していく中で、いろんなアイデアが生まれ、「面白い」と思いました。これがきっかけですね。

んな人たちが集まっています。いろんな人が集まるところで、新たなビジネスや街づくりのきっかけになると思って始めたのですが、実際に、地域で働いていく者たちはもちろん、腹をつかせた学生とか（笑）いろんな人が集まってきた、時に私自身も一緒に酒を酌み交わしたりするんですね。このある者が「解体祭」つて言葉を発したんです。さういふ若者たち

します。現在、当社は一部自社施工しているもののメインの事業としては前者となりますが、われわれが元請けとして事業を行ううえにどのようなメリットを生み出せるかなどを考えていました。そんな中、東京都文京区根津エリアに地域コミュニティの活性化を目的とした「まちの学び舎」として飲食店「ねづくりや」を2022年3月にオープンさせたんです。ここには本当にい

日が解体する建物の処理・リサイクルの流れを理解する機会にもなりますね。開催してですね。50年間お世話になつた町の人々へ、御成門ビルに入居していたテナントの皆さんを始めとするさまざまな方々からの出品物を無料で見るまい、精一杯のおもてなしをさせて頂く企画です。

そして二つ目が「ペント体験」ですね。ビルの大きな壁や天井など四方八方をキャンバスに見立てて、会場に訪れた人たちで感謝します。もちろんそういう気持ちは大切です。その一方で、参加した皆さんと話したり、アンケートを読んだりして改めて感じたことですが、解体工事は終

Digitized by srujanika@gmail.com